

プロジェクトリーダー：愛知工業大学 工学部 武田美恵教授

事業実績調査書

(1) プロジェクト名	防災につながる多文化交流プロジェクト
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	<p>日本人だけではなく、外国人も住みたいと思える団地にするためには、多文化交流を積み重ねていくことで、国籍問わず共生しながら住みたいと思われる団地にすることが重要だと考え、今年度のプロジェクトでは、いつ起きるか分からない災害に備えて地域活動拠点を活用した多文化交流を目的とした実証実験により団地内で持続可能な多文化交流の方法を検討することを目的とした。菱野団地内の公民館、集会所、瀬戸市内の言語教室、新郷地域交流センター「さとの家」、ひしのミナクルで、ヒアリング及びアンケート結果に基づき計画した実証実験を通して、日本人と外国人が菱野団地に求める居場所について調査した。活動成果として、一つ目は地域で国籍年齢関係なく住民同士で助け合える関係性を築くための行動を実践していない人が多かったが、地域の外国人に対して何かしてあげたいと考える日本人住民がいる。二つ目は仕事で日本語が必要であるからという理由で日本語教室に通っている人がいる一方で、家族とは母国語で話すため、日本人と会話をする機会が欲しいという理由で通う人がいることが分かった。本プロジェクトにより、国籍問わず今まで利用したことのない人が菱野団地の地域活動拠点である「ひしのミナクル」を訪れるきっかけとなった。</p>
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	

【ダンスイベント】

2021年～2022年度に「防災につながる多文化交流プロジェクト」として、日本人居住者が外国人居住者との交流やお互いに理解し合うことのできない要因を探り、実践的に交流活動を行うことで地域社会における日本人と外国人の共助関係の構築に役立てることを目的として、菱野団地の日本人・外国人住民、大人・子供を対象としたヒアリング調査、アンケート調査を行うとともに、新郷地域交流センター「さとの家」とひしのミナクルで交流活動（イベント）を実施した。

7月3日、5日新郷地域交流センターさとの家で日曜礼拝を定期的に行っているペルー人礼拝団体にイベント開催の協力を申し出たところ、了承を得ることができた。9月のホール利用の予約開始日に合わせて新郷地域交流センターさとの家の利用予約を完了させた。

8月26日イベントのチラシとして日本語・英語・スペイン語・ポルトガル語の4か国語を作成し、八幡公民館・ひしのミナクル・新郷地域交流センターさとの家に直接配布した。また八幡公民館とひしのミナクルではチラシの掲示、新郷地域交流センターさとの家ではチラシを置かせてもらった。

9月1, 2, 6日イベントのチラシとして日本語・英語・スペイン語・ポルトガル語・中国語・タガログ語の6か国語作成し、瀬戸市国際センター・にほんごオアシス・こども日本語教室はらやまの生徒・ボランティアに直接配布した。

9月11日新郷地域交流センターさとの家にてイベントを開催した。イベント参加者はペルー人の子ども3名、大人4名、日本人の大人1名の計8名であり、いずれもペルー人礼拝団体のメンバーである。スタッフとして調査員である大学生3名が参加した。

実施結果として、礼拝団体以外の参加者がなく、外国人が今まで関わりのなかった菱野地区の日本人と関わるきっかけにはならなかった。聞き取り調査において、日本人大学生が外国人に関わろうとしてくれたことがうれしいと感じた外国人参加者もいたため、国籍を問わず関わり合うことは、少なからず日本人に対する理解につながるということが分かった。

【フードドライブ】

2023年度の活動場所として考えているみんなの会ひしのミナクルは、菱野団地再生に向けた活動拠点であり、広場に面しているため、遊び場として利用する児童や駄菓子を買ってくる人、幼児と一緒に過ごす親子にとって良い居場所になっていた。しかし、生活に困っている人々に目を向けたイベントはまだ行われていなかった。そこで、2022年度の活動の締めくくりとして、2022年12月23日、みんなの会の拠点であるひしのミナクルを「フードドライブ」の開催場所として「ひしのミナクルdeつながるフード」～ひしのミナクルでクリスマスに幸せをおすそ分けする「フードドライブ」を実施した。

イベントの告知方法として、チラシを3台の公民館と集会所、ひしのミナクルに掲示し、継承スペイン語教室、ブラジル語母語教室、日本語教室はらやまの先生に協力してもらい、生徒や保護者に配布した。イベント当日、クリスマスプレゼントとして用意した全41個の食品の詰め合わせやみんなの会会長が用意した冬用の衣類を手渡すことができた。後に御礼の手紙が大学に届けられた。提供した食品は、愛工大と地域連携協定を結ぶイオンモール長久手、大学教職員、菱野商店街の食品スーパーいせや、いせやさんが声をかけてくれた商店街の方、語学教室の先生、さるなかとんな代表、原山台マルチ文化交流部会（イベント告知）など活動を知った方々の協力によるものである。皆の気持ちが一つにつながることができた。

(4) プロジェクトの今後の課題と展望

ヒアリング及びアンケート結果に基づき計画した実証実験を通して、菱野団地を1つにつなぐ今後のひしのミナクルでの活動内容を見いだせた。誰かのためにという思いを持っている人を頼りながら、地域の活動団体が主催となりきっかけをつくり、そこに日本人と外国人が集まって交流していくことが団地内での持続可能な多文化交流の方法であると考え。本プロジェクトにより市民同士に交流が生まれ、瀬戸市の地域活性化に向けた有意義な予算執行ができたと思う。一方で大学と行政の協働実施については特に利点がなかったため次年度の活動においては行政の管轄を超えた協力的な関わりを期待したいと考えている。